

2015 年度活動報告

1. はじめに

私たちの社会は様々な問題を先送りにしてきた結果、どれ一つとっても今大きな問題になって来ました。経済や安保、原発や温暖化、TPP に象徴される自給や食品の安全、環境汚染や資源争奪や枯渇、水問題、食糧安保から貧困、児童虐待、暴力や弱者切捨て、そして心の問題まで広く深く私達を取り巻いてきています。どれひとつとっても生活に深く結びついており、それゆえ生活協同組合が直面している問題です。

東日本大震災と福島第一原発事故から 5 年目を迎えようとしています。心を病んでいる人は被災地で 30% 近くになり、また被災地では子供の居場所がなく不登校や引きこもり、虐めや校内暴力があり、災害公営住宅にも入れない貧困が大きく取りざたされています。東日本大震災と東京電力福島第一原発事故と向き合い、被災県における事業者として生協も生産者も、ここで本当に必要とされる事業なのか、自らの存在意義を明確にする必要を強く感じます。

このような状況下で私たちはただ生協の言うとおりに生産して販売してもらう、販売先の一つが生協だから…でいいのでしょうか？組合員にとって本当に将来とも必要な生産物であり生産者なのか、組合員とともにしっかり考えていかなければなりません。組合員をお客さん化すれば、組合員も生産者や生産物を価格も含めて他と天秤に掛けます。家計が厳しくなれば少しでも安い商品へ流れる人も出てくるでしょう。生協と協働するとはどういったことなのか…私達は考えなくてはならない状況にあると考えます。自ら考えなければ誰も私達を助けてはくれないのです。

商品部と生産者の関係についていえば、取引として生協の基準にあった商品を提供する関係にとどまらず、真に社会に必要とされる生協を目指す同じ「仲間」としてそれぞれの思いを深め、共有していくべきだという考えのもと、もっと生産者の商品製造に関して生協職員にも学ぶ機会を持って欲しいし生産者も時間を取って商品部に出向き学ぶ機会を持つことが出来ないか。各生産分野の産地を訪問し、その分野が抱えている問題点や現状の課題を商品部と生産者が互いに学び、様々な実験的取り組みにチャレンジし、新しい企画がその中から商品部と生産者で作っていけないだろうか。たとえば農業分野でいえば、温暖化に伴い将来大きく影響を受ける気象変動や作物での問題などを考察し先取りした実験的な取り組みを今始めるべきではないでしょうか。

昨年度の方針に上げた一次生産者からの「もったいない（余剰生産物など）」情報を集め加工者が共同開発に取り組む活動は、このような思いのもと、従来の枠組みに囚われていればジリ貧だという危機感をもって提案しましたが、まだ具体的な動きにまで進めていません。引き続き会員各位とあいコープ商品部への問題提起としていきたいと思えます。

「何故？生協と取引をするのか」「生産者はどこに向かおうとしているのか」は事業と運動の両面で我々は自らの軸がブレないように考えるべきです。これまであいコープと共生会

が目指してきた関係は、互いに知恵を出し合い深めあえる関係です。生協の問題提起を受けあるいは生産者からの提案によるさまざまな実験的取り組みを可能にする関係は何よりも貴重な経営資源であり、次世代に繋げていくべきものと考えます。

2. 生協組合員との交流（別紙資料「会員参加企画の感想まとめ」参照）

あいコープみやぎのあいぶらんど運動推進委員会が料理講習会「みんなであいごはん」を開催し、毎回あいぶらんど生産者が参加して組合員と一緒にあいごはんを作りながらあいぶらんど商品の良さを伝えました。「みんなであいごはん」は4月から12月までに計8回開催され、七郷みつば会（宮城県仙台市、農産）、趙さんの味（宮城県仙台市、キムチ）、タンポポ村（福島県南相馬市、ハム・ソーセージ）、米沢郷牧場（山形県東置賜郡、鶏肉）、マツダ製麺（宮城県仙台市、生麺）、菅野食品（宮城県仙台市、豆腐）、秋保ゆうきの会（宮城県仙台市、農産）、大郷みどり会（宮城県大郷町、農産）が参加しました。

秋保ゆうきの会、大石田百姓保存会（山形県北村山郡、スイカ）、ながめやま牧場（山形県西置賜郡、酪農）、大郷みどり会、高橋徳治商店（宮城県東松島市、練り製品）、菅野食品にあいコープみやぎの組合員が産地・工場見学で訪問しました。

みやぎの秋のフォーラム（地区委員会主催の商品学習会、今年のテーマは食品添加物）に、高橋徳治商店が3回参加、趙さんの味が1回参加しました。

あいコープみやぎ・あい農委員会主催の農業体験企画「田んぼに行こう」、「畑に行こう」に大郷みどり会、七郷みつば会が協力しました。また組合員有志によるチームえんのうが、大郷みどり会、七郷みつば会、大石田百姓保存会、天童果実同志会（山形県天童市、果樹）、佐々木貞美さん（宮城県遠田郡美里町、苺・梨）の援農作業に取り組みました。

あいコープみやぎ石けん環境学習会主催の組合員学習会が2回行われ、それぞれ太陽油脂（神奈川県横浜市、石けん）、ボーソー油脂（千葉県船橋市、石けん）が講師を務めました。彩生舎（滋賀県近江八幡市、菓粧）が石けん環境委員会の定例会で講師を務めました。

あいコープみやぎのPB豆腐を生産する菅野食品をみやぎ事業部の配送担当職員2名が訪問取材を行い、あいぶらんど通信にレポートを掲載しました。

あいコープふくしまでは生産者との交流会が10回開催され米沢郷牧場の伊藤代表と婦人部の皆さん、天童果実同志会、千葉産直センター（千葉県千葉市、缶詰等）、平田産業（福岡県朝倉市、菜種油）、趙さんの味、田尻あい豚会（宮城県大崎市、養豚）、花兄園（宮城県仙台市、鶏卵）、高橋徳治商店、ながめやま牧場が参加しました。

産地訪問では、森農園（福島県須賀川市、農産）のニラの花摘みが（二回）、ながめやま牧場訪問、タンポポ村訪問が実施されました。

福島県浪江町から避難されている方々の仮設住宅（本宮市）での餅つき交流に庄内協同ファームが今年も参加しました。前日交流会も開かれ、ふくしまの役職員との交流も行いました。福島の子どもの心身の保養を目的とした庄内浜ツアーに、庄内協同ファーム（山形県

東田川郡、農産加工品)と月山パイロットファーム(山形県東田川郡、農産加工品)が協力しました。

3. 生協祭りへの参加

10月25日仙台市若林区の卸商サンフェスタであいこーぷみやぎ Wa!わぁ祭りが開催され、57会員188名が出展しました。また、32会員が協賛品を提供しました。仲間作りを目的として掲げ、2000名余りの組合員、ゲストが参加しました。

11月29日郡山市ビッグパレットであいこーぷふくしまのあいこーぷまつりが開催され38会員が出展し、組合員、ゲストが2031名参加しました。

みやぎ・ふくしまの祭りは共に盛況で、みやぎでは40名の祭り当日加入がありました。みやぎの企画「一日子ども店長」に32会員が協力し参加者に大好評でした。

4. I 耕塾活動

次世代生産者の交流と学習活動を担うI 耕塾では、水産研修会、キッズ料理コンテスト、理事&生産者&職員交流会、田んぼに行こう計4回の参加に取り組みました。異業種の生産現場を体験しながら交流し、これからますます困難を増す食を巡る状況に立ち向かっていく力を養いました。

《活動記録》

2015年度のI 耕塾は次のメンバーで、下記の活動を行いました。

2015年度メンバー

阿部寿一(水産加工)・細谷滋紀(農産)・西塚忠樹(農産)・鈴木豊(畜産)・濱口利文(加工)・片桐道也(農産)・鎌田常太郎(加工)・高橋利彰(水産加工)・横山裕一()・高橋洋介(畜産)・袋和人(農産)・牛渡正典(食肉加工)・中川啓介(生協)・播磨賢次(生協)

I 耕塾 2015年度活動

日程	内容
4月10日	I 耕塾幹事会
5月23日	「田んぼに行こう(田植え)」宮城県大郷町の圃場
5月23日	「もう一つの経済」を考える東北の集い 参加
5月23日	I 耕塾幹事会
6月13日	「田んぼに行こう(草取り)」
6月19日	水産現場学習(高橋徳治商店)→報告①
6月20日	水産現場学習(丹野商店)→報告①
7月4日	「田んぼに行こう(いきもの調査)」

- 7月24日 I 耕塾幹事会
7月25日 「畑にいこう!」(仙台市若林区)
8月22日 理事・生産者交流会 2015 →報告②
9月18日 I 耕塾幹事会
10月3日 「田んぼに行こう(大郷、稲刈り)」
10月10日 キッズ料理コンテスト →報告③
10月25日 Wa わぁ祭り
11月13日 幹事会

※「田んぼに行こう」「畑にいこう!」は「あい農委員会」の企画に参加。

この中でも I 耕塾の活動の中心である 3つの企画について以下に抜粋して報告します。

報告①6月19日、20日石巻水産現場学習(宮城県東松島市・石巻市)

1 日目「高橋徳治商店工場見学・高橋会長による座学」

工場見学ではシンプルな食材だからこそ手間がかかっていることを実感した。また、製品作りに対する社員一人一人の意識の高さと、生産の合理化(コスト意識)が印象的だった。

高橋会長の座学では添加物について学習した。粉・油・水で牛乳を使わずにソフトクリームの素ができる事を知り、本当の食品とは何か?とすることを「異業種」の立場からも考えさせられる良い機会となった。

2 日目「石巻魚市場見学・丹野商店工場見学」

早朝、石巻地区の組合員とHACCP対応の新魚市場を見学した。衛生管理強化のために、工場と同じシステムを導入していることに感心した。また、放射性物質の検査体制の説明、見学を行った。海域、魚種ごとにスクリーニング検査、シンチレーションによる検査が行われていた。放射能チェックで消費者の信用を受けて行こうと言う意思が感じられた。

「丹野商店見学」では鮭の手切りを体験し、作業の難しさを体験した。海外での需要から紅鮭など輸入魚の価格が高騰していて将来的に今の価格で水産品が食べられなくなる事など、現在の日本の水産業界にある問題点を知ることができた。

報告②理8月22日事・生産者交流会/あいあいファーム(宮城県大崎市)

「I 耕塾メンバー・また共生会参加団体の若手生産者、組合員理事、そして職員が交流して意見交換を行う事。」「現地でのBM技術学習、耕畜連携の学習を行う。」この2点をテーマとして今年の交流会は開催された。生産者、理事、参加職員と家族の参加があり、総勢 60

名を超える企画になった。

牧場見学では、現地職員の案内で「アニマルウエルフェア」や「BMWプラント」や「バイオベット」について学習した。においも少なく快適な環境で豚が育てられていることを知った。

また、交流会では生産者と消費者の代表がじっくりと意見交換を行うことが出来た。毎年形を変えていく傾向にある理事・生産者交流会だが、今後もアイデアを出して有意義な交流が出来るようにしていきたい。

報告③10月10日あいキッズ料理コンテスト（宮城県仙台市）

昨年に引き続き第2回目の開催となった。子供たちがこの企画に参加することで、より食への関心を高めることが出来る企画を目指した。

参加者は7名。それぞれの参加者の意気込みを感じられる内容で審査も難航した。当初は参加者がなかなか集まらずに苦労したが、結果的には参加した子供達の集中力ややる気が充実していたことを感じる事ができ、改めて今後も開催していきたい企画だと感じた。

参加者の母親からの手紙を以下に抜粋。

「キッズ料理コンテストでは、大変お世話になりました。賞品とともに届いたあたたかいメッセージ、子どもたちも私もとても嬉しかったです。ありがとうございます。ラ・フランスもりんごも、とってもおいしく頂いています。毎日、ラ・フランスの熟し具合をみながら、「これは食べごろかな」と子どもたちと相談して、食べてみる。まるで、果物と会話しているみたいな幸せな時間です。」

「Wa! わあまつりの夕食は、おまつりで買ったキムチ鍋の素と、あいコープの豚肉、野菜でキムチ鍋をしました。本当にしみじみおいしくて、こんなに美味しい食材を作ってくださる生産者の方々と、そして、生産者と私たちを結び付けてくださるあいコープの存在に、心から感謝しています。」

「娘は最近反抗期なのか、勉強や生活面に関しては親のアドバイスをなかなか素直に聞かないのですが、この料理コンテストに関しては、かなり厳しく言われても、素直に受け止めて、真剣に練習を繰り返してびっくりしました。それだけ、料理が好きで、このコンテストに出場することが彼女にとって大きいことなんだな・・・と実感しています。

素敵なお機会を与えていただき、本当にありがとうございます。また来年を楽しみにしています。」

5. 農法研究会（別紙「農法研究会報告会資料」参照）

優ぶらんの基準達成に向けての2年目の農法研究会では、優ブランド基準を達成するために農薬削減の実践研究を前年に引き続き、各産地ごとにテーマ設定の上進めました。そ

の結果を1月21日に生産者5団体10名、あいコープみやぎ4名の参加で総括会議を行い、2月5日には共生会総会の第一部として農法研究会報告会を開催しました。総括において西塚研究会代表から農薬削減を実践していく上で、健康な植物体を作る基本となる土づくりを見直し、研究テーマに改めて検討して欲しいこと、実験の進め方において1テーマで複数の変動要因を設けているケースが多くみられ、どの要因の効果があつたのか判断しにくくなっており、わかりやすい試験区の設定を工夫すべきとのまとめが提起されました。各産地の取り組みについては別紙資料を参照してください。あいコープみやぎ小野瀬理事長から「組合員数、利用高は震災前から低下していたが、2015年度でようやく底をついた。ここで他の生協、市場との違いを明確に打ち出せる取組みを発信していくことが求められる。農産担当商務を2名にすることで、2016年度は農法研究会の取組みを拡充させる。」との発言をうけました。

6. GMOフリーゾーン全国交流集会の準備

あいコープみやぎはGMナタネ自生調査を5月13日仙台港、5月21日石巻港で行い、仙台で趙さんの味、石巻でアードブルー（東京都清瀬市、化粧品）が参加しました。7月8日に行われた自生調査報告会には幹事会で参加し、遺伝子組み換えいらないキャンペーンの天笠啓祐氏の講演で学習しました。

GMOフリーゾーン全国交流集会 in みやぎ実行委員会に共生会から鎌田醤油、JA 加美よつば、迫ナチュラルファーム自然村（宮城県登米市、農産）、大郷みどり会、七郷みつば会が参加しています。集会実行委員会の委員長は共生会の鎌田副会長が担っています。

宮城県内の迫、加美、大郷、七郷の四つの産直産地でGMOフリーゾーン宣言の屋外看板の設置が行われました。

7. あいコープみやぎ2020ビジョン

あいコープみやぎは組合員、職員が参加して2020年ビジョン作りに取り組んでいます。これは30代・40代の組合員理事と中堅職員でつくったビジョン委員会を中心に、5年後のあいコープみやぎの「ありたい姿」、何を実現するのか、事業の数値目標も含めた中期目標づくりを行なうものです。生協理事だけではなく、組合員、職員、生産者にも議論の輪を広げながらビジョンづくりが進められています。組合員へのアンケートには300名もの意見が寄せられました。

ビジョン委員会と幹事会の意見交換会が10月29日に行われ、生産者も討議に参画しました。2月5日総会前に行われるビジョンワークショップにもあいづらんど生産者を中心に生産者も参加し討論に加わっています。

8. 販売促進・商品開発

昨年の共生会総会で行われた「まんま通信模擬企画会議（ワークショップ）」の成果を活

用し5月3回まんま通信別冊で乾麺特集に合わせて「我が家のそうめんパーティー」、5月4回まんま通信裏面特集で「食彩酔ってとっても万能なんで酔！」が企画されました。

そうめん企画では素麺1品とトッピングとして7点提案し、掲載商品8品で計1341点50万円余りの利用高でしたが1品ずつの実績としては通常よりも大きく伸ばすことは出来ませんでした。同じソーメンでも好みに合わせて「あっさり」と「こってり」のトッピングを選ぶというアイデアであったが、実際のトッピングする食材を選ぶ段階で完成度を上げきず今後の課題となりました。

食彩酔企画では使い方提案を行い前年度平均利用点数129本から、5月4回で575点の利用があり、特集以後の平均利用点数が161本に伸びるという結果を出すことができました。

PB商品としての皮なしウインナー開発を目指して、みやぎで「皮なしポークウインナープロジェクト」が立ち上げられ、タンポポ村との協働で開発がすすめられています。

地区委員からの推薦に基づいて、ながめやま牧場の「放牧パスちゃんプレーンヨーグルト」、わたり納豆（宮城県）の「あいコープの納豆」、菅野食品の「あいコープの豆腐きぬ・もめん」、わはわ味明（宮城県大郷町、米粉）の「米粉の焼きどーナツ」の5品が新しくあいぶらんど商品に認定されました。

メルマガで余剰農作物などの原材料提案を呼びかけましたが、該当する提案がなく開発には至りませんでした。

9. 商品部との協働

放牧パスちゃん牛乳を使ったプレーンヨーグルトのPB商品開発を組合員試食を何度も積み重ね実現しました。パン工房わはわの米粉パンシリーズで定期的に新作発表し、3回の企画実績により「入替戦」を実施し、「塩バターロール」「胡桃といちじくのライ麦パン」等のヒットが産まれました。

品質管理について、昨年より20件以上商品事故発生件数が増加し、71件に及びましたが発生しました。青カビ・菌増殖によるぬめり・腐敗臭等の生物的危害や、異物混入（金属・人由来・原料由来）が発生しています。一般的衛生管理の重要性を認識し、事故原因を自社で追求し検証できる仕組みを構築しながら、品質管理レベル向上をはかっていく必要があります。

農産品の供給における欠品問題の解決が生協組合員から強く要望されています。生産者団体内での生産状況の情報共有、生協と生産者の中で、作付計画から企画、供給に至るまでのより精度の高い情報共有により一層の力をいれることが必要です。そしてやむを得ない欠品が生じた場合にも、生産者から生協組合員に対して産地の実情を真摯に伝える情報発信が求められています。

10. その他の活動について

*生産者自身も環境を守る石けん運動への取り組むことを前回の総会で呼びかけ、天童果実同志会において会員多数の参加により石けん学習会が開催されました。が、開催はその1カ所にとどまりました。

*被災者の支援活動では、高橋徳治商店と石巻若者サポートセンターのコラボ商品「石巻サシェ」や各地の仮設住宅集会所での様々な手作り小物などが、みやぎのWa!わぁ祭りで販売されました。また、ふくしまのあいコープまつりには浪江から本宮の仮設住宅に避難されている大勢の方々が招待され参加しました。

*脱原発・再稼働反対・六ヶ所再処理工場の取り組みでは、みやぎ脱原発エネルギーシフト委員会の開いた民間版スピーディー集会（女川原発事故シミュレーション）に丸壽阿部商店（宮城県南三陸町、牡蠣）が参加しました。各会員はあいコープみやぎが行う放射能検査への検体提供を積極的に行いました。1月～12月までの間に1993検体が検査され、その結果はあいコープみやぎホームページで公開されています。

*あいコープみやぎが呼びかけた「社会的経済って何」集会に幹事会、I 耕塾の多くのメンバーが参加し学びました。